



【第26次南極海鯨類捕獲調査船団入港式】に参加した本川一善水産庁長官（左）と中尾市長。調査捕鯨母船「日新丸」の前にて（4月7日、あるかぼーど）

市ホームページ「市長の部屋」へどうぞ。http://www.city.shimonoseki.lg.jp/

産業・経済力をアップ！ 産業分野の組織を見直し



んには。市長の中尾友昭です。4月1日に市の組織体制を一部見直し、産業経済部を廃止して、産業振興部と農林水産振興部を設置しました。雇用、生活に直結する産業の活性化は喫緊の課題の一つです。

農林水産業や商工業の振興、産業立地、就業支援などまちの元気につながる産業・経済力のアップに取り組んでいきます。4月に行われた第1次産業での取り組みを紹介しましょう。

4 月7日、第26次南極海鯨類捕獲調査を終えた母船「日新丸」を含む調査捕鯨船団が、下関港に寄港。母船の下関寄港は、4年ぶりです。今回の捕獲頭数は、反捕鯨団体「シー・シェパード」の妨害のため、1987年の調査開始以来最低の、クロミンククジラ103頭でした。船体にはシー・シェパードから受けた危険な妨害活動による多数の傷跡が見られ、乗組員の皆さんのご苦労がうかがわれます。

近代捕鯨の歴史を持つ下関市では、「くじらのまち日本一」を掲げて、さまざまな取り組みを行っています。中でも調査捕鯨船団の寄港誘致は、毎年、(財)日本鯨類研

究所や共同船舶(株)などの関係機関に要望を続けて実現できました。寄港の実現には、流通コストなどの課題があり、倉庫、荷役、運輸など関係団体と調査捕鯨母船「日新丸」下関寄港誘致協議会を立ち上げて、対策を協議。今回の寄港で調査の副産物の鯨肉が下関港に陸揚げされました。寄港により鯨肉の保管や流通だけでなく、関係者の宿泊など経済効果の波及を大いに期待しています。

今後は、寄港のみならず、調査捕鯨船団の出港、帰港を下関港で歓迎できる恒久的な母港化を目指したいと考えています。

み のりの丘「ジビエセンター」が、4月18日に供用開始しました。有害鳥獣による農林作物の被害対策を捕獲と防護の両面で講じていますが、ジビエセンターの活用により、捕獲したイノシシやシカの埋設労力の軽減や、搬入した処理肉の対価受け取りによる捕獲意欲の向上につながるものと期待しています。

くじら、有害鳥獣のいずれも、その消費拡大が今後の取り組みの進展に影響しますので、市民の皆さんの地産地消に対する積極的なご協力をお願いします。

しものせきナビ vol.33

年表を歩く

先帝祭御旅所 (1185年)



御旅所と呼ばれる場所を知っていますか。伊崎町にあり、ここにはかつて、中島組という漁業を営む一団がありました。中島組が1185(寿永4年)の壇ノ浦の決戦直後、丸太船四隻に分乗し、網で出漁中、安徳天皇の御遺体をその網で拾いあげたとの言い伝えがあります。中島組はすぐに漁を中止し、安徳天皇の御遺体を仮安置しました。この仮安置した場所が「御浜殿」と呼ばれています。安徳天皇の御遺体は、その後阿弥陀寺に葬られ、これが赤間神宮境内の天皇



御旅所の石碑や説明看板など

御陵となっています。この出来事以来、中島家はますます隆盛し、この地域の漁業権を得ることとなりました。

現在、中島家は、先帝祭の上臈参拜の際に先頭に立つてお参りし、お供えなどを行います。先帝祭では、上臈参拜の次の日に御神幸が行われ、この御浜殿は御旅所となっています。先帝祭には、今でも安徳天皇を慈しむ人々の思いが息づいています。

● 下関市年表販売中！
広報広聴課の他、各総合支所、本庁の各支所、長府・彦島図書館で販売しています。
販売価格 3000円
岡広報広聴課(☎231-2951)

「元気UP通信」のコーナーでは、中尾市長の似顔絵を募集しています。右上の似顔絵と同程度の比率で作成したものを、広報広聴課(〒750-8521市内南部町1番1号)へお寄せください。